

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（一般研究）

研究代表者 所属・職名 自然・生活教育学系・准教授

氏 名 宮川 健

研究期間 平成29年度～平成30年度

研究プロジェクトの名称	グローバル教員育成のためのプロジェクト型国際交流プログラムにおける学生の学び
研究プロジェクトの概要	<p>本研究プロジェクトの目的は、グローバル人材の育成を担う学校教員の育成を実現するため、スイス・ヴォー州教育大学（HEP Vaud）とともに、教員養成系大学における国境を超えた学生の協働を採り入れたプロジェクト型国際交流プログラムを開発・実施し、教員の国際共同研究により、そこでの学生の知識や学びの性格を基礎的に明らかにすることである。</p> <p>国際交流プログラムでは、オンライン及び一週間ずつの相互訪問を通して、両国の参加者が共同で算数の授業開発・実践を進め、それぞれの国の授業の特徴や文化的差異について理解を深めるものである。</p> <p>このプログラムを通して、参加者の学生が国際感覚を身につけるのみならず、教員は彼らの授業や協働をデータとして収集し学術的な研究を推進する点が特長である。</p>
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>平成29年度は、プロジェクト型国際学生交流プログラムを成功裏に終えることができた。9月より協働による算数の授業づくり、それぞれ1週間ずつの相互訪問（10月に受入、2月に訪問）、附属小学校における授業実践などを実施した。これらを通して、参加学生は、「21世紀を生き抜くための能力+α」の向上に資する語学、コミュニケーション能力、国際的な視野、異文化と自国の文化などについて多くを学んだ。</p> <p>平成30年度は、交流プログラムでの参加学生の活動及び実践した授業をデータとして国際共同研究を進めた。当該年度は、スイスと日本の算数授業の比較分析に焦点を当て、それぞれの国の授業の差異を特定するのみならず、それらを形作る文化的な要素を分析し授業の仕組みを検討した。この成果は、以下にあげるように、種々の国際会議・学会で発表してきた。今後さらに研究を発展させ、国内外で成果発表の予定である。</p> <p>また、ヴォー州教育大学と覚書等による大学間の協定を結んだ（2018年3月締結）ことも特筆すべき成果である。</p>
研究成果の発表状況	<p>成果については、HP (http://www.juen.ac.jp/math/miyakawa/peers/) を参照のこと。報告書、活動紹介ビデオ、国内外での研究発表が多数ある。</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>研究成果の学校現場への還元を念頭に置いて、授業開発及び実践を附属小学校教員と共同で推進した。</p> <p>また、今回の交流プログラムの成果は、学校教員対象の全国研究大会で発表し（根津・宮川, 2018）、学校現場への還元に努めた。</p>

【提出期限】平成31年3月29日（金）正午：厳守